

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 18 せいなるみかみは	讚美歌 135 十字架のもとには
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 22:10~11	黙 禱
マタイによる福音書 27:45~56	主の祈り 564
讚美歌 136 血しおしたたる	頌 栄 539 あめつちこぞりて
説 教 『父なる神もまた十字架に』	祝 禱 後 奏

「さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた(マタイ 27:45)」。奇妙な自然現象はこれだけではない。「そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った(27:51~52)」。福音書は十字架の周囲に起こった不可思議を伝えている。命の源であるキリストの死によって、世のすべてが大きく転換していく徴なのか。死は虚無に見えるが、まったく違う何かが始まろうとする兆しなのだろう。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか(27:46)」。この謎めいた言葉。十字架という土壇場に来て、瀕死のイエスが大声で叫んだ。「えっ、こんなはずじゃない」と思ったのか、神と結びついている感覚を失ったか。ヨハネ福音書では最後に「成し遂げられた(ヨハネ 19:30)」と語り、後代のキリスト者にいくらかの答えを与えてくれているが、十字架上の叫びは謎のままだ。

聖書(旧約)に精通したイエスだから、朦朧とした意識の中、詩編の文言をムニヤムニヤ唱えていた、とも想像できる。「わたしの神よ、わたしの神よ、なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず、呻きも言葉も聞いてくださらないのか(詩編 22:2)」。十字架の叫びは、まさに詩編そのものではないか。であればその続きも、聞き取れない声でブツブツ唱えていたかもしれない。

「わたしを母の胎から取り出し、その乳房にゆだねてくださったのはあなたです。母がわたしをみごもったときから、わたしはあなたにすがってきました(22:10~11)」。死へ赴こうとする中、あたかもクリスマスを想起しているかのようだ。降誕前から十字架まで、イエスは御心に従い御手に導かれて歩まれた。マリアの胎は、その乳房の母は、十字架のイエスの、声にならない祈りきを聞いていたか。

「そこでは、大勢の婦人たちが(ガリラヤからの)が遠くから見守っていた(マタイ 27:55)」。ヨハネ福音書によれば、母マリアはこの女たちと共に十字架直下にいた(ヨハネ 19:25)。騒然とする中、たとえ十字架の近くにいたとしても、イエスの口から漏れ出た言葉は聞き取れまい。漏れ出た詩編の祈り、母マリアには聞こえなかった。しかし十字架の痛みを、イエスをみごもったその胎をもって共に痛んだろう。父なる神もまた、いわばキリストの「胎」として十字架につけられ、共に痛みを負っていた。

改めて問おう、十字架とは何なのか。十字架とは罪の徴であり、その赦し。「十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った(ルカ 22:3)」。サタンは人間の道徳や高潔さではね返せるものではなく、「十二人」の誰でも、私たちの誰でもがユダのようにされる。サタンは禍々しく自己主張する通俗的な悪魔ではない。ひっそり、こっそり、心の隙間にすりと入って、人間の奥底にある「罪」を活性化させる。サタンとは、世に偏在している不可知な暗闇の力。そのサタンの働きが十字架で露わにされた。人間の罪に結びついたサタンが、十字架によって明るみに引き出された。

神は、サタンによって引き出される私たちの罪を赦し給う。「まあしょうがないよ」と鷹揚に目こぼしするのではない。イエスの呻きと共に神御自身も血を流しながら、十字架による赦しを表し給う。

「イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた(マタイ 27:50)」。息を引き取る」を直訳的に言えば「霊を送り出す」。私たちの窓は開いていて、サタンも入るが、十字架の息=愛の聖霊も吹き抜けていく。

サタンが入らないよう扉と窓を閉じてしまったら 自分を閉じ籠め 罪は居座って増殖するだろう
それもまたサタンの策略 窓くらいは開けて聖霊の風を迎えてほしい 扉の鍵は状況を見極めつつ

3/18(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(YMCA)。3/20(水祝)9:00~12:00 教会林の整備、力仕事多し。次主日 3/24 は長崎哲夫牧師に礼拝説教していただきます。教会総会は 4/21 の礼拝後です。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。